

事後評価点検表

事業名	地域総合オアシス整備事業「金岡地区」																																															
担当部署	泉州農と緑の総合事務所 耕地課（連絡先 072-439-3601 内 293）																																															
事業箇所	堺市北区金岡町																																															
内容	<p>ため池（5ヶ所）について、老朽化した施設の改修を行い、洪水時における決壊や溢水などによる災害を未然に防止し、地域の安全なまちづくりを行うとともに、親水性の向上や水辺環境の保全整備を行い、地域の人々に「うるおい」と「やすらぎ」を与える快適な水辺環境を創造する。</p> <p>また、地震等の災害時に、ため池の水を防火用水などに活用するため防災ネットワークとしての水路整備などを行い、災害に強い地域づくりを目指し、下記の整備を行った。</p> <p>○事業内容</p> <table border="0"> <tr> <td>ため池改修</td> <td>5箇所（森池、菅池、長池、堂ヶ池、寺池）</td> </tr> <tr> <td>保全施設整備</td> <td>1式（オアシス農園・あずまや・親水護岸・植栽・消火活動用スペース・トイレ・芝生広場・多目的広場）</td> </tr> <tr> <td>防災施設整備</td> <td>1式（防火水槽・防災ゲート等【貯水箇所13箇所】）</td> </tr> </table>	ため池改修	5箇所（森池、菅池、長池、堂ヶ池、寺池）	保全施設整備	1式（オアシス農園・あずまや・親水護岸・植栽・消火活動用スペース・トイレ・芝生広場・多目的広場）	防災施設整備	1式（防火水槽・防災ゲート等【貯水箇所13箇所】）																																									
ため池改修	5箇所（森池、菅池、長池、堂ヶ池、寺池）																																															
保全施設整備	1式（オアシス農園・あずまや・親水護岸・植栽・消火活動用スペース・トイレ・芝生広場・多目的広場）																																															
防災施設整備	1式（防火水槽・防災ゲート等【貯水箇所13箇所】）																																															
関連事業とその現状	<ul style="list-style-type: none"> 「農空間づくりプラン事業」 整備後の農地等を利用し、田植え稲刈り体験、コスモス植栽、花摘みなど、活動継続中 「都市計画道路南花田鳳西町線」 現在地元協議中であり、未認可 																																															
社会経済情勢の変化	<p><平成8年度（事業採択年度）から平成23年度の推移></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th rowspan="2">人口</th> <th rowspan="2">総農家数</th> <th colspan="2">農業就業人口</th> <th rowspan="2">耕地面積</th> </tr> <tr> <th>(対象：販売農家)</th> <th>60歳以上割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H8年度</td> <td>840,384人</td> <td>3,693戸</td> <td>2,616人</td> <td>54.1%</td> <td>1,370ha</td> </tr> <tr> <td>H23年度</td> <td>841,966人</td> <td>2,790戸</td> <td>1,519人</td> <td>68.8%</td> <td>1,240ha</td> </tr> <tr> <td>増減</td> <td>0.19% (1,582人)</td> <td>▲24.5% (▲903戸)</td> <td>▲41.9% (▲1,097人)</td> <td>14.7%</td> <td>▲9.49% (▲130ha)</td> </tr> </tbody> </table> <p>※H8年度は1995世界農業センサス H23年度は2010世界センサスより</p> <ul style="list-style-type: none"> 総農家数及び農業就業人口は大きく減少し、高齢者割合も増加。 耕地面積の減少率より農家数の減少率が大きい。 ⇒担い手の確保、営農条件の改善、施設管理労力の低減が課題 堺市では、平成17年に美原町と合併し、平成18年に政令指定都市に移行。 府では、平成20年4月に「大阪府都市農業の推進及び農空間の保全と活用に関する条例」（以下「条例」という）を施行しており、その条例に基づき、平成20年5月、堺市で「守るべき農空間」として、約1,102haが農空間保全地域に指定されている。 本地区を含む堺市域の販売目的農業では、稲作は増加し、野菜類等は減少傾向にある。 <堺市域（金岡町周辺含む）の販売目的農業の推移> ※世界農業センサスより <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>耕地面積</th> <th>農家数</th> <th>稲作</th> <th>野菜類</th> <th>花き類</th> <th>耕地放棄</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2005年</td> <td>161ha</td> <td>604戸</td> <td>22ha</td> <td>53ha</td> <td>2ha</td> <td>28ha</td> </tr> <tr> <td>2010年 (2005比較)</td> <td>148ha (▲13ha)</td> <td>530戸 (▲74戸)</td> <td>29ha (7ha)</td> <td>22ha (▲31ha)</td> <td>1ha (▲1ha)</td> <td>26ha (▲2ha)</td> </tr> </tbody> </table>		人口	総農家数	農業就業人口		耕地面積	(対象：販売農家)	60歳以上割合	H8年度	840,384人	3,693戸	2,616人	54.1%	1,370ha	H23年度	841,966人	2,790戸	1,519人	68.8%	1,240ha	増減	0.19% (1,582人)	▲24.5% (▲903戸)	▲41.9% (▲1,097人)	14.7%	▲9.49% (▲130ha)		耕地面積	農家数	稲作	野菜類	花き類	耕地放棄	2005年	161ha	604戸	22ha	53ha	2ha	28ha	2010年 (2005比較)	148ha (▲13ha)	530戸 (▲74戸)	29ha (7ha)	22ha (▲31ha)	1ha (▲1ha)	26ha (▲2ha)
	人口				総農家数	農業就業人口		耕地面積																																								
		(対象：販売農家)	60歳以上割合																																													
H8年度	840,384人	3,693戸	2,616人	54.1%	1,370ha																																											
H23年度	841,966人	2,790戸	1,519人	68.8%	1,240ha																																											
増減	0.19% (1,582人)	▲24.5% (▲903戸)	▲41.9% (▲1,097人)	14.7%	▲9.49% (▲130ha)																																											
	耕地面積	農家数	稲作	野菜類	花き類	耕地放棄																																										
2005年	161ha	604戸	22ha	53ha	2ha	28ha																																										
2010年 (2005比較)	148ha (▲13ha)	530戸 (▲74戸)	29ha (7ha)	22ha (▲31ha)	1ha (▲1ha)	26ha (▲2ha)																																										

<p>事業実施による自然環境の変化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・住宅地と農地が混在する地域に適した、周辺及び自然環境に配慮した事業を実施し、貴重な水辺空間を創造したことにより、事業以前は雑草が生い茂り通行することさえできなかった、ため池堤体を活用できるようになり、農空間や自然とふれあえる環境となった。 ・ため池堤体上の遊歩道や親水護岸、市民農園（森池西側 89 区画 各 20 m²）などのアメニティ整備により、利用する周辺住民や水利関係者等のふれあいの場となり、ウォーキングや農業体験などにより地域住民の交流が生まれた。今では、快適な生活・住環境を形成する地域資源となっている。 ・寺池に生息していた絶滅危惧種の“オオミクリ”に配慮し、矢板等により生育環境を保全しながら堤体改修を行うなどの工法を行った結果、現在も池内に群生しており、貴重な生物資源が保全されている。 ・従来から、本地区のため池群は農業生産の主要な水源として重要な役割を担っている。一方、防災ゲート等による整備により、火災発生時の防火用水や震災時の生活用水として活用できるようになり、地域の防災拠点としての機能も備わった。 ※地域の防災訓練として、平成 12 年から継続して実施中 ・本地区において、ため池オアシス整備を契機に、平成 13 年に「金岡まちづくり協議会」が発足し、地域住民が主導となり、農空間づくりプランのモデル活動となった道普請（住民自らが既設の水路敷やあぜ道を拡幅して農道を造成 平成 18～19 年度）を行った。また、植え稲刈り体験、コスモス植栽、花摘みなども計画し、平成 14 年度から継続して実施中であり、地域住民の手による自主的な交流が進み、都市近郊に残る貴重な農空間の保全及び地域の活性化につながっている。
<p>最終評価時の意見 具申と府の対応</p>	<p>「意見具申」 事業の継続の必要性が認められ、かつ、事業進捗上も特段の支障が無いと考えられるため「事業継続は妥当」と判断する。計画的に工事進捗していることから、投資効果の面からも事業を早期に完成させることが必要。</p> <p>「対応方針」 「事業継続」とする。</p> <p>「具体的な取り組み内容」 事業効果の早期発現に向け、計画的に事業を進めるよう協議・調整を行うとともに、発生残土の場内処分等のコスト縮減に努めた。</p>

	【最終評価時点 H17】	【事後評価時点 H24】	【分析】
事業費	11.38 億円	11.05 億円	予定どおり完成 コスト削減や入札差金に伴う減。
①事業期間 ②採択年度 ③着工年度 ④完成年度	①11年 ②平成8年度 ③平成8年度 ④平成19年度	①11年 ②平成8年度 ③平成8年度 ④平成19年度	予定どおり完成
費用便益分析等	○費用便益分析 B/C=6.51 ○便益総額 B=74.16 億円 (①+②) ①災害防止効果 70.97 億円 (農業関係資産) 1.42 億円 (一般公共資産) 69.55 億円 ②水辺環境効果 3.19 億円 ○総費用 C=11.38 億円 (③+④) ③当該事業費 11.38 億円	○費用便益分析 B/C=7.17 ○便益総額 B=79.19 億円 ①災害防止効果 76.10 億円 (農業関係資産) 1.36 億円 (一般公共資産) 74.74 億円 ②水辺環境効果 3.09 億円 ○総費用 C=11.05 億円 (③+④) ③当該事業費 11.05 億円	・ため池・水路改修により 災害防止効果を発揮。 ・オアシス構想に基づく総合的な整備による快適な水辺空間の保全・創造。 ・コスト削減による総事業費減、市街化拡大による災害防止効果増により、費用便益比が増加。
定性的効果	(安全・安心) ・ため池の水を活用した防災訓練が平成12年度より毎年実施され、地域住民の防災意識の高揚、地域防災力の向上が図られている。 (活力) ・農業用水の確保と施設管理の省力化が図られ、地域農業の振興に寄与する。 ・整備された施設(遊歩道・オアシス農園等)の利用による地域住民の交流及び活性化を図る。 (快適性) ・水と緑豊かな水辺環境の創出により、快適な生活環境及び周辺地域資源と調和した美しい水辺景観が形成される。	(安全・安心) ・老朽化したため池・水路が改修されたことにより、安全な生活環境が確保された。また、防災訓練が行われるなど地域防災力の向上にもつながっている。 (活力) ・取水施設等の整備により、維持管理の省力化が図られ、高齢者への負担が軽減することにより農業就業者の減少を抑え、地域農業の振興に寄与した。 ・遊歩道・オアシス農園等の施設整備により、地域住民の交流及び活性化が図られ、農空間がふれあいの場として意義づけされた。 (快適性) ・水辺環境の創出により、快適な生活環境及び周辺地域資源と調和した美しい水辺景観が形成された。	・所期の目的を達成。 ・所期の目的を達成。 ・所期の目的を達成。

<p>定性的効果</p>	<p>(その他)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オアシス農園・多目的広場が造成され、地域住民に提供される。 ・ため池をフィールドとした環境学習が行える。 ・ため池の多面的機能が保全される。 	<p>(その他)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森池に新たに造成されたオアシス農園は、全ての区画が利用されており、その管理は地元及び自治会により運営されている。 ・近隣小学校における環境学習活動において、地元水利組合等が参加し、地域住民の世代間交流の活性化が図られている。 ・ため池の水を活用した防災訓練の実施により、地域住民の防災意識の高揚及び地域防災力の向上が図られている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・所期の目的を達成。
<p>その他特記事項</p>	<p>なし</p>		
<p>評価結果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・5つのため池を総合的に整備し、また防災ネットワークとして水路改修整備を行ったことにより、決壊及び溢水による被害防止や農業用水の安定供給、維持管理の省力化に加え、地域防災力の向上が図られ、事業目的が達成された。 ・ため池群改修の快適な水辺環境の創造、遊歩道や市民農園などのアメニティ整備など、オアシス構想に基づいた総合的な整備を実施することにより、地域住民の交流の場として貴重な地域資源となり、現時点においても、多くの住民に利用されており、事業目的が達成された。 ・各池の事業成果は以下のとおり。 <ul style="list-style-type: none"> (長 池) 地域住民の憩いの場として、散策や通勤・通学の生活道として日常的に利用され、埋立造成した多目的グラウンドが地域活動・防災拠点となっている。 (菅 池) 長池と森池を結ぶルートが形成され、多目的広場が地域住民の憩いの場として日常的に利用されている。 (森 池) 堤体上が散策道となっているほか、浚渫造成されたオアシス農園が多くの方に利用されるなど農とふれあえる貴重な空間を地域住民に提供している。 (堂ヶ池) 学校や住宅地に近接した池として、浚渫により水質改善され、景観護岸等により、日常的な地域住民の憩いの場となっている。 (寺 池) オオミクリを代表とする湿性植物が豊かに繁殖し、自然資源を有する池として、地域の貴重な水辺空間となっている。 		
<p>今後の同種事業に対する改善措置等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・都市部における農空間事業を行う場合、本地区の実績を活かし、次の点について今後の事業で留意する。 <p>本地区のように、住宅地と農地が混在した地域においては、ため池や水路等の改修による農業用施設としての適正な施設管理のみに留まらず、地域ぐるみの維持管理体制づくりなど地域の実情に応じて、市民農園や環境に配慮した整備を行うほか、地域で共有できる農空間を活用し、学校教育や防災訓練活動などを行いながら、都市住民と農業の担い手が連携した、地域ぐるみの体制を整えることにより、農空間の持続的な保全と地域力の発展へとつなげていくことが重要と考えられる。</p>		